

関東信越厚生局長 殿

開設者名 山梨大学長 前田 秀一

山梨大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第 10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第 11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	42	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照（様式第 12）
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照（様式第 13）

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	237人	99人	316.8人	看護補助者	59人	診療エックス線技師	人
歯科医師	4人	6人	8.8人	理学療法士	6人	臨床検査技師	37人
薬剤師	33人	人	33.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	人
保健師	人	人	人	視能訓練士	3人	その他	人
助産師	26人	2人	27.1人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	460人	28人	477.2人	臨床工学技士	7人	医療社会事業従事者	1人
准看護師	人	人	人	栄養士	4人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	1人	1人	1.8人	歯科技工士	1人	事務職員	118人
管理栄養士	5人	0人	5.0人	診療放射線技師	28人	その他の職員	46人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	468.2人	2.5人	470.7人
1日当たり平均外来患者数	1205.6人	54.2人	1259.8人
1日当たり平均調剤数	764.6 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	1 人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	0 人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法原発性乳がん (エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	25 人	・膿疱性乾癬	2 人
・多発性硬化症	67 人	・広範脊柱管狭窄症	6 人
・重症筋無力症	67 人	・原発性胆汁性肝硬変	28 人
・全身性エリテマトーデス	103 人	・重症急性膵炎	10 人
・スモン	1 人	・特発性大腿骨頭壊死症	13 人
・再生不良性貧血	28 人	・混合性結合組織病	9 人
・サルコイドーシス	20 人	・原発性免疫不全症候群	4 人
・筋萎縮性側索硬化症	44 人	・特発性間質性肺炎	3 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	19 人	・網膜色素変性症	35 人
・特発性血小板減少性紫斑病	41 人	・プリオン病	0 人
・結節性動脈周囲炎	24 人	・肺動脈性肺高血圧症	1 人
・潰瘍性大腸炎	77 人	・神経線維腫症	4 人
・大動脈炎症候群	10 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・ピュルガー病	13 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0 人
・天疱瘡	16 人	・慢性血栓性肺高血圧症	0 人
・脊髄小脳変性症	69 人	・ライソゾーム病	0 人
・クローン病	35 人	・副腎白質ジストロフィー	0 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0 人
・悪性関節リウマチ	2 人	・脊髄性筋萎縮症	2 人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	108 人	・球脊髄性筋萎縮症	9 人
・アミロイドーシス	4 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	10 人
・後縦靭帯骨化症	31 人	・肥大型心筋症	2 人
・ハンチントン病	0 人	・拘束型心筋症	0 人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	26 人	・ミトコンドリア病	2 人
・ウェゲナー肉芽腫症	3 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0 人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	48 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	31 人	・黄色靭帯骨化症	5 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0 人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	33 人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・膀胱水圧拡張術	・
・エシキマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断部門との開催状況 *毎週開催 乳腺・甲状腺症例検討会 婦人科症例検討会 腎生検症例検討会(年2回) *毎月開催 第一外科症例検討会 呼吸器症例検討会 下部消化管症例検討会
部 検 の 状 況	部検症例数 23 例 / 部検率 0.97%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
次世代シーケンサーを用いた統合的遺伝子解析による慢性C型肝炎の病態解明	榎本 僑幸	内科学1	6,110,000	補委 日本学術振興会
大腸癌患者の血清DKK4測定によるWntシグナル亢進の評価とその意義	山口 達也	内科学1	1,950,000	補委 日本学術振興会
細胞内脂質代謝抑制によるC型肝炎ウイルス治療戦略の開発	雨宮 史武	内科学1	1,950,000	補委 日本学術振興会
次世代シーケンサーによるHCVゲノム解析と薬剤耐性機構の解明	坂本 穰	肝疾患センター	1,820,000	補委 日本学術振興会
Ultra-deep sequencingを用いたHCV治療戦略の構築	前川 伸哉	内科学1	1,820,000	補委 日本学術振興会
ホスホリパーゼA2受容体の解析による心血管病の成因解明と新規治療薬の開発	久木山 清貴	内科学2	3,770,000	補委 日本学術振興会
薬剤溶出性ステントによる気絶または冬眠心筋の機能回復に対する阻害作用に関する研究	尾畑 純栄	内科学2	1,170,000	補委 日本学術振興会
薬剤溶出性ステント留置後の冠動脈内皮障害へのリモートコンディショニング効果の検討	中村 貴光	内科学2	1,560,000	補委 日本学術振興会
ホスホリパーゼA2を介するマクロファージの変性LDL取り込みにおける新たな機序解明	藤岡 大佑	地域医療連携支援学	2,210,000	補委 日本学術振興会
自己免疫性膵炎と劇症1型糖尿病の新規自己抗体の発見と測定系の確立	滝澤 壮一	環境内科学	2,080,000	補委 日本学術振興会
CD28ノックアウトNODマウスを用いた緩徐進行1型糖尿病のモデル動物の開発	小林 哲郎	内科学3	2,860,000	補委 日本学術振興会
劇症1型糖尿病の病因・病態の解明及び新たな治療法の開発	遠藤 登代志	内科学3	2,860,000	補委 日本学術振興会
劇症1型糖尿病発症における自然免疫の役割と発症予防に関する研究	會田 薫	内科学3	2,210,000	補委 日本学術振興会
小胞体ストレス応答における甲状腺ホルモン受容体の作用の解明	古屋 文彦	内科学3	2,860,000	補委 日本学術振興会
微細緑藻類による放射性物質除染法開発とその発癌抑制効果	志村 浩己	環境内科学	2,080,000	補委 日本学術振興会
骨髄増殖性腫瘍における低酸素エピゲノム応答機序とその破綻の解明	桐戸 敬太	血液・腫瘍内科	3,120,000	補委 日本学術振興会
てんかん児の前頭葉機能障害に関する神経機能解剖学的研究	金村 英秋	小児科	1,040,000	補委 日本学術振興会
11q23転座型ALLと、それを維持する骨髄微小環境の生物学的特性と機序の解明	古市 嘉行	小児科	650,000	補委 日本学術振興会
小児難治性固形腫瘍に対する同種ナチュラルキラー細胞による抗腫瘍効果	合井 久美子	小児科	1,690,000	補委 日本学術振興会
乳幼児閉塞型睡眠時無呼吸症候群の診断基準の確立と病態解明、治療効果の検討	杉山 剛	小児科	2,860,000	補委 日本学術振興会
急性リンパ性白血病に発現されるCD33抗原の解析	赤羽 弘資	小児科	1,560,000	補委 日本学術振興会
B前駆細胞性白血病におけるLMO2過剰発現の機序と意義に対する検討	廣瀬 衣子	小児科	1,690,000	補委 日本学術振興会
抗ミュー管ホルモンは前思春期の精子形成を抑制する	大山 建司	小児科	2,340,000	補委 日本学術振興会
小児白血病に対する移植片対白血病効果における細胞傷害因子の臨床応用に向けた研究	犬飼 岳史	小児科	2,600,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経接着因子関連の脳神経ネットワークから依存を解明する	石黒 浩毅	精神科	1,300,000	補委 日本学術振興会
アルツハイマー病脳におけるマイクロRNA発現の異常と酸化ストレスの関連性	布村 明彦	精神科	1,430,000	補委 日本学術振興会
電気けいれん療法における発作後せん妄状態の脳波・局所脳血流解析	安田 和幸	精神科	1,170,000	補委 日本学術振興会
経頭蓋直流刺激の臨床応用についての研究	本橋 伸高	精神科	2,080,000	補委 日本学術振興会
双極性障害におけるTRPM2/GSK3βを介した細胞内カルシウム制御障害の解明	上村 拓治	精神科	1,560,000	補委 日本学術振興会
HSV/HIV 経皮感染初期の免疫機構の解明と侵入阻害法の開発	島田 眞路	皮膚科	5,460,000	補委 日本学術振興会
メラノーマ担癌宿主に対する有効な免疫治療法を確立するための基礎研究	柴垣 直孝	皮膚科	1,040,000	補委 日本学術振興会
キナーゼ阻害薬の悪性黒色腫増殖抑制に対するメカニズムの解明	原田 和俊	皮膚科	1,820,000	補委 日本学術振興会
蛍光HIVの表皮侵入機構の可視化と新規HIV侵入阻害薬の開発	川村 龍吉	皮膚科	1,430,000	補委 日本学術振興会
ヒトマウスを用いたVitaminD3, HSV-2のHIV感染への関与の検討	島田 眞路	皮膚科	650,000	補委 日本学術振興会
腫瘍微小環境でメラノーマに誘導される新規免疫抑制分子の同定	猪爪 隆史	皮膚科	1,950,000	補委 日本学術振興会
マラビロク内服後の精液暴露による経皮的ヒト免疫不全ウイルス感染阻害効果	松澤 高光	皮膚科	2,470,000	補委 日本学術振興会
単純ヘルペスウイルス感染防御におけるマスト細胞の役割の解明	青木 類	皮膚科	3,250,000	補委 日本学術振興会
担癌宿主におけるSTAT3阻害剤(GRIM-19)を用いた抗腫瘍効果の研究	花輪 書絵	皮膚科	3,250,000	補委 日本学術振興会
担癌状態における免疫抑制機序、特にTh17細胞の分布と誘導機序の解明	水上 佳樹	外科学1	520,000	補委 日本学術振興会
慢性日本住血吸虫症の肝細胞癌切除後の再発・予後に与える影響とそのメカニズムの解明	松田 政徳	外科学1	1,820,000	補委 日本学術振興会
肝類洞機能を重視した新しい視点に基づく人工肝臓補助システムの開発	藤井 秀樹	外科学1	1,820,000	補委 日本学術振興会
非癌部遺伝子プロファイルによるヒト肝細胞癌のサブクラス分類の検討	土屋 雅人	外科学1	1,950,000	補委 日本学術振興会
食道扁平上皮癌に対する抗HER3抗体療法の開発	河口 賀彦	外科学1	2,340,000	補委 日本学術振興会
ヒト食道癌におけるT-reg, Th17細胞の遊走・分化と病態進行の検討	丸山 孝教	外科学1	1,820,000	補委 日本学術振興会
本邦における小児褥瘡の発症現況と病態の解明、および褥瘡予防器具の開発	高野 邦夫	外科学2	650,000	補委 日本学術振興会
CREBを分子標的とした大動脈瘤に対する遺伝子治療の開発	松本 雅彦	外科学2	1,170,000	補委 日本学術振興会
小児人工心肺の安全性向上のための膜型人工肺における灌流障害に関する研究	鈴木 章司	外科学2	2,340,000	補委 日本学術振興会
変形性脊椎症の原因解明と低侵襲治療の開発	波呂 浩孝	整形外科	2,600,000	補委 日本学術振興会
骨肉腫におけるmTORの役割の解明	安藤 隆	整形外科	2,080,000	補委 日本学術振興会
脊髄損傷後神経再生におけるFABPと制御因子の解明	内田 幹人	脳神経外科	650,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳虚血耐性現象におけるエピジェネティクスを介した神経保護機序の解明	吉岡 秀幸	脳神経外科	1,820,000	補委 日本学術振興会
脳虚血においてGLP-1がアポトーシスを抑制し神経再生を促進する分子機構の解明	金丸 和也	脳神経外科	2,080,000	補委 日本学術振興会
脳虚血および虚血耐性現象におけるミトコンドリアバイオジェネシスの意義の解明	木内 博之	脳神経外科	1,950,000	補委 日本学術振興会
新規血小板活性化受容体CLEC-2の悪性グリオーマの増殖能及び浸潤能への関与	佐藤 浩企	脳神経外科	2,210,000	補委 日本学術振興会
TNF- α とスーパーオキシドからみた、ウリナスタテンによる心筋保護効果の解明	小口 健史	麻酔科	1,040,000	補委 日本学術振興会
日本におけるモニタード・アナスセジア・ケアの安全性と有効性の検討	飯嶋 哲也	麻酔科	1,300,000	補委 日本学術振興会
前投薬、加齢が麻酔前加温と術中体温(中枢温、末梢温)に及ぼす影響に関する研究	松川 隆	麻酔科	1,820,000	補委 日本学術振興会
心筋虚血再灌流障害に対して高用量インスリン投与は有効か	佐藤 宏明	麻酔科	1,300,000	補委 日本学術振興会
体細胞核移植技術の臨床応用の実現へ向けた系統的・基礎的研究	平田 修司	産婦人科	1,690,000	補委 日本学術振興会
子宮頸部胃型腺系病変の生物学的解析	端 晶彦	医療福祉支援センター	2,080,000	補委 日本学術振興会
雄性生殖細胞への遺伝子導入による遺伝子疾患治療の試み	正田 朋子	産婦人科	1,690,000	補委 日本学術振興会
凍結保存した除核IVM卵を用いた体細胞核移植胚由来ES細胞の作出	深澤 宏子	産婦人科	1,950,000	補委 日本学術振興会
低活動膀胱に対する中枢性及び末梢性神経ペプチド受容体を標的とした治療戦略	芳山 充晴	泌尿器科	1,170,000	補委 日本学術振興会
下部尿路機能障害における求心性伝達機構と新たな治療法の開発に関する研究	武田 正之	泌尿器科	5,720,000	補委 日本学術振興会
下部尿路におけるTRPV4を介した伸展刺激による尿意のメカニズムの解明	望月 勉	泌尿器科	1,300,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎の疼痛に対するボツリヌス毒素、トリカブト毒の作用機序	土田 孝之	泌尿器科	1,950,000	補委 日本学術振興会
生体リズム異常に伴う夜間頻尿発症メカニズムと新規治療法-足浴の効果とその機序-	武田 正之	泌尿器科	1,170,000	補委 日本学術振興会
伸展刺激に対する膀胱上皮細胞におけるATP放出メカニズムの解明	中込 宙史	泌尿器科	1,430,000	補委 日本学術振興会
A型ボツリヌス毒素は、尿路のTRPイオンチャネルを制御するか?	工藤 祥司	泌尿器科	2,990,000	補委 日本学術振興会
膀胱上皮における新規メカノセンサーPiezoの発現と機能の解明	宮本 達也	泌尿器科	2,860,000	補委 日本学術振興会
病態モデル膀胱上皮細胞の伸展刺激に対するATP放出のメカニズム	吉良 聡	泌尿器科	2,210,000	補委 日本学術振興会
網膜疾患診療経過の客観的評価システム開発	飯島 裕幸	眼科	1,040,000	補委 日本学術振興会
加齢黄斑変性症患者における感受性遺伝子とサイトカインの関連性	櫻田 庸一	眼科	1,820,000	補委 日本学術振興会
Estrogen-1受容体による眼圧制御、眼圧上昇メカニズムの解明	間瀬 文彦	眼科	2,080,000	補委 日本学術振興会
眼グリア細胞の緑内障性網膜神経節障害への関与機序解明と治療法の探索	古屋 敏江	眼科	2,080,000	補委 日本学術振興会
低容量抗癌剤と樹状細胞局所投与による新規免疫化学療法の開発	増山 敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
頭頸部癌におけるESRP分子の発現と分子細胞学的意義と臨床応用	石井 裕貴	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
拡散強調画像の新たな展開; 灌流の定量	本杉 宇太郎	放射線科	650,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌に対する定位放射線治療後の放射線肺臓炎発症に關与する遺伝子多型の研究	大西 洋	放射線科	3,640,000	補委	日本学術振興会
磁場を利用した成長因子・細胞局所注入法と超音波照射を応用した骨膜伸展骨形成法開発	樋口 雅俊	歯科口腔外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
肺上皮細胞の発生、分化における血小板受容体CLEC-2の役割の解明	井上 修	臨床検査医学	1,690,000	補委	日本学術振興会
ピロリ菌惹起ITPにおける外毒素VacAと血小板マルチメリンの役割	尾崎 由基男	臨床検査医学	1,040,000	補委	日本学術振興会
抗血小板薬シロスタゾールの薬効モニタリング法の開発ならびに有用性の検討	佐藤 金夫	臨床検査医学	1,690,000	補委	日本学術振興会
敗血症ラット持続的血液濾過透析モデルにおける膜素材の検討とバイオマーカーの探索	針井 則一	地域医療学	1,950,000	補委	日本学術振興会
血中sCLEC-2測定法の確立と臨床応用に向けた検討: 動脈血栓症の予防を目指して	長田 誠	検査部	650,000	補委	日本学術振興会
低異型度尿路上皮癌の新しい検出法-FGFR3の発現およびHPV-DNAの検出-	中澤 久美子	病理部	600,000	補委	日本学術振興会
セボフルラン、プロポフォール麻酔時のエストロゲン、プロゲステロンの脳保護効果	石山 忠彦	手術部	910,000	補委	日本学術振興会
血糖値が体温調節性シバリングに与える影響についての研究	正宗 大士	手術部	1,300,000	補委	日本学術振興会
重症患者に対する連続陽音解析による腸蠕動運動モニタリング法の開発とシステムの構築	松田 兼一	救急部	1,040,000	補委	日本学術振興会
mTORを分子標的としたバイパス開存率向上の研究	榊原 賢士	救急部	910,000	補委	日本学術振興会
エピジェネティクス制御による甲状腺癌の分化誘導と上皮間葉転換抑制に関する研究	近藤 哲夫	人体病理学	780,000	補委	日本学術振興会
乳線神経内分泌腫瘍(B-NETs)の発生機構の病理学的解析および新分類の提唱	川崎 朋範	人体病理学	1,430,000	補委	日本学術振興会
抗がん剤投与による末梢神経障害の緩和を目的とした皮膚貼付型ハイドロゲルの開発	飯島 哲也	麻酔科	65,000	補委	日本学術振興会
遺伝子症性対麻痺の新規原因遺伝子同定とその機能解析	瀧山 嘉久	神経内科	65,000	補委	日本学術振興会
早期の癌に対する標準的放射線治療方法確立と適応決定に関する研究	大西 洋	放射線科	325,000	補委	日本学術振興会
頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究	森山 元大	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	351,000	補委	日本学術振興会
抗がん剤投与による末梢神経障害の緩和を目的とした皮膚貼付型ハイドロゲルの開発	小口 敏夫	薬剤部	65,000	補委	日本学術振興会
小型遠心ポンプを用いた可搬型徐水システムの開発	松田 兼一	救急部	208,780	補委	日本学術振興会
新規血小板上受容体CLEC-2を標的とした抗血小板薬、抗転移・腫瘍薬、検査の開発	井上 克枝	臨床検査医学	61,704,980	補委	日本学術振興会
ウイルス性肝炎の病態に応じたウイルス側因子の解明と治療応用	榎本 信幸	内科学1	27,170,000	補委	厚生労働省
創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究	前川 伸哉	内科学1	2,500,000	補委	厚生労働省
ウイルス性肝疾患に対する分子標的治療創薬に関する研究	前川 伸哉	内科学1	2,000,000	補委	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
B型肝炎ウイルス感染症に対する新規の治療薬の研究・開発	榎本 信幸	内科学1	10,180,000	補 委	厚生労働省
B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解析に関する研究	榎本 信幸	内科学1	10,000,000	補 委	厚生労働省
慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究	坂本 穰	肝疾患センター	1,500,000	補 委	厚生労働省
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	滝山 嘉久	神経内科	1,500,000	補 委	厚生労働省
スモンに関する調査研究(山梨県におけるスモン患者の病態)	滝山 嘉久	神経内科	700,000	補 委	厚生労働省
安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	川村 龍吉	皮膚科	3,000,000	補 委	厚生労働省
漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病BPSD軽減効果の検証-プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験-	布村 明彦	精神科	100,000	補 委	厚生労働省
高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	武田 正之	泌尿器科	130,000	補 委	厚生労働省
高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	大西 洋	放射線科	200,000	補 委	厚生労働省
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	大西 洋	放射線科	250,000	補 委	厚生労働省
脳動脈瘤塞栓術におけるHydrogel coilの塞栓効果に関する他施設共同無作為化比較支援(HYBRID study)	木内 博之	脳神経外科	263,025	補 委	公益財団法人先端医療振興財団
平成24年度原子力災害影響調査等事業(甲状腺結節性疾患有所見率等事業)	志村 浩己	環境内科学	3,288,933	補 委	特定非営利活動法人日本乳腺甲状腺超音波医学会
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	井上 慎吾	外科学1	100,000	補 委	財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
					計115件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	J Med Virol	Model incorporating the JTPA genotype identifies patients at high risk of anemia and treatment failure with pegylated-interferon plus ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	Kurosaki M, Tanaka Y, Nishida N, Sakamoto N, Enomoto N, Matsuura K, Asahina Y, Nakagawa M, Watanabe M, Sakamoto M, Maekawa S.	第一内科
2	Hepatol Res.	The serum RANTES level influences the response to pegylated-interferon and ribavirin therapy in chronic hepatitis C.	Komase K, Maekawa S, Miura M, Sueki R, Kadokura M, Shindo H, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Yamashita A, Moriishi K.	第一内科
3	PLoS One.	Inhibition of Both Protease and Helicase Activities of Hepatitis C Virus NS3 by an Ethyl Acetate Extract of Marine Sponge Amphimedon sp	Fujimoto Y, Salam KA, Furuta A, Matsuda Y, Fujita O, Tani H, Ikeda M, Kato N, Sakamoto N, Maekawa S, Enomoto N, de Voogd NJ, Nakakoshi M, Tsubuki M, Sekiguchi Y, Tsuneda S, Akimitsu N, Noda N, Yamashita	第一内科
4	J Viral Hepatitis.	IL-28B (IFN- λ 3) and IFN- α synergistically inhibit HCV replication	Shindo H, Maekawa S, Komase K, Miura M, Kadokura M, Sueki R, Komatsu N, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Yamashita A, Moriishi K, Enomoto N.	第一内科
5	Hepatology.	Comprehensive analysis for viral elements and IL28B polymorphisms in response to peginterferon plus ribavirin therapy in hcv-1b infection.	Maekawa S, Sakamoto M, Miura M, Kadokura M, Sueki R, Komase K, Shindo H, Komatsu N, Shindo K, Kanayama A, Ohmori T, Amemiya F, Takano S, Yamaguchi T, Nakayama Y, Kitamura T, Inoue T, Okada S.	第一内科
6	Mar Drugs.	Inhibition of hepatitis C virus replication and viral helicase by ethyl acetate extract of the marine feather star <i>Alloeocomatella polycladia</i> .	Yamashita A, Salam KA, Furuta A, Matsuda Y, Fujita O, Tani H, Fujita Y, Fujimoto Y, Ikeda M, Kato N, Sakamoto N, Maekawa S, Enomoto N, Nakakoshi M, Tsubuki M, Sekiguchi Y, Tsuneda S, Akimitsu N, Noda N, Tanaka	第一内科
7	Hepatogastroenterology	Factors contributing to the overall survival in patients with hepatocellular carcinoma treated by sorafenib	Tsukui Y, Mochizuki H, Hoshino Y, Kawakami S, Kuno T, Fukasawa Y, Iwamoto F, Hirose S, Yoshida T, Hosoda K, Suzuki Y, Kojima Y, Hirose Y, Shindou K, Matsuda M, Yagawa S, Tawera A, Kobayashi M, Konishi T, Yamazaki T, Takahashi S, Fujii H.	第一内科
8	J Med Virol	Correlation between pretreatment viral sequences and the emergence of lamivudine resistance in hepatitis B virus infection.	Sueki R, Maekawa S, Miura M, Kadokura M, Komase K, Shindo H, Kanayama A, Ohmori T, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Uetake T, Inoue T, Sakamoto	第一内科
9	Hepatol Res	Factors responsible for the discrepancy between IL28B polymorphism prediction and the viral response to peginterferon plus ribavirin therapy in Japanese chronic hepatitis C patients.	Saito H, Ito K, Sugiyama M, Matsui T, Aoki Y, Imamura M, Murata K, Masaki N, Nomura H, Adachi H, Hige S, Enomoto N, Sakamoto N, Kurosaki M, Mizokami M, Watanabe S.	第一内科
10	Hepatology	Bayesian prediction for liver fibrosis staging: Combined use of elastography and serum fibrosis markers.	Motosugi U, Ichikawa T, Araki T, Matsuda M, Fujii H, Enomoto N	第一内科
11	Therapeutic Research 33(6):856-860	メタボリックシンドロームにおけるResidual Cardiovascular Riskとしての高レムナントリポ蛋白血症の重要性	久木山清貴, 中村貴光	第二内科
12	International journal of cardiology. 158(3):417-422	Predictive value of serial assessment of endothelial function in chronic heart failure.	Takishima I, Nakamura T, Hirano M, Yoshinobu K, Kobayashi T, Fujioka D, Saito Y, Watsnabe K, Watanabe Y, Mishina H, Obata J, Kawabata K, Tamaru S, Kugiyama	第二内科
13	EuroIntervention. 2012 Aug 8(4):493-500.	Vasomotor function and re-endothelialisation after implantation of biodegradable abluminal polymer coated paclitaxel-eluting stents in rabbit iliac arteries: a time-course study.	Nakamura T, Winsor-Hines D, Yin X, Sushkova N, Chen JP, King SB 3rd, Chronos N, Eppihimer M, Huibregtse B.	第二内科
14	International journal of cardiology. 2012 Oct 18;160(3):210-212.	Vasomotor function and molecular responses following drug-eluting stent in a porcine coronary model.	Nakamura T, Jing C, Xinhua Y, Li J, Chen JP, King SB 3rd, Chronos N, McDonald JF, Hou D	第二内科
15	Journal of interventional cardiology. 25(6):533-539	Usefulness of a collateral channel dilator for antegrade treatment of chronic total occlusion of a coronary artery.	Obata J, Nakamura T, Kitta Y, Saito Y, Sano K, Fujioka D, Kawabata K, Kugiyama K	第二内科
16	Cardiovascular research. 97(2): 282-292	Chronic depletion of glutathione exacerbates ventricular remodelling and dysfunction in the pressure-overloaded heart.	Watanabe Y, Watanabe K, Kobayashi T, Saito Y, Fujioka D, Nakamura T, Obata J, Kawabata K, Mishina H, Kugiyama K	第二内科
17	Catheter Cardiovasc Interv. 2013 Feb 4.	In-stent restenosis is inhibited in a bare metal stent implanted distal to a sirolimus-eluting stent to treat a long de novo coronary lesion with small distal vessel diameter.	Obata JE, Nakamura T, Kitta Y, Saito Y, Sano K, Fujioka D, Kawabata KI, Kugiyama K.	第二内科
18	山梨肺癌研究会会誌 25:2-6, 2012.4	肺小細胞癌における治療前予後因子の検討	渡邊一孝, 菱山千祐, 石原裕, 久木山清貴	第二内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
19	Yamanashi Medical Journal. 27(2):51-58, 2013	Gemcitabine Plus Carboplatin in Patients with Advanced Non-Small-Cell Lung Carcinoma : Phase I / II Study of 28-Day Schedule.	Kazuyoshi WATANABE, Hiroshi ISHIIHARA, Keiichi NISHIKAWA, Sensuke HISHIYAMA, Masaki KANAZAWA, Satoshi YAMAGA, Junya MIYAKI, Hiroshi YAMAGUCHI, Yasuyuki NARUMIYA, Zennosuke OOKI, Katsura OZAWA, and Kiyotaka KUGIYAMA	第二内科
20	Am J Physiol Endocrinol Metab. 302(12):1569-1575, 2012	Expression of functional TSH receptor in white adipose tissues of hyt/hyt mice induces lipolysis in vivo	Toyoshi ENDO	第三内科
21	PLOS ONE. 7(8):e42358, 2012	Dominant Negative Effect of Mutated Thyroid Stimulating Hormone Receptor (P556L) Causes Hypothyroidism in C.RF-Tshrhvt/wild Mice	Toyoshi ENDO	第三内科
22	PLOS ONE, 7(9):e44200, 2012	Absorption of Radionuclides from the Fukushima Nuclear Accident by a Novel Algal Strain	Hiroki SHIMURA	第三内科
23	糖尿病, 55(10):815-820, 2012	1型糖尿病の診断基準と治療の進歩 (1型糖尿病の診断基準と治療の進歩)	今川 彰久	第三内科
24	Diabetology International, 3(4):179-183, 2012	Reports of the Committee of the Japan Diabetes Society on the Research of Fulminant and Acute-onset Type 1 Diabetes Mellitus: New diagnostic criteria of fulminant type 1 diabetes mellitus (2012)	Akihisa Imagawa	第三内科
25	J clin Endocrinol Metab, 97:E2277-E228, 2012	High Frequency of HLA B62 in Fulminant Type 1 Diabetes with the Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome	Hiroshi Onuma	第三内科
26	Journal of Medical Genetics49(12):777-784	A homozygous mutation of C12orf65 causes spastic paraplegia with optic atrophy and neuropathy (SPG55)	Shimazaki H, Takiyama Y, Ishiura H, Sakai C, Matsushima Y, Hatakeyama H, Honda J, Sakoe K, Naoi T, Namekawa M, Fukuda Y, Takahashi Y, Goto J, Tsui S, Goto Y, Nakano I	神経内科
27	Parkinsonism & Related Disorders 19(3):350-354	Long-term effect of repeated lidocaine injections into the external oblique for upper camptocomia in Parkinson's disease.	Furusawa Y, Mukai Y, Kwazoe T, Sano T, Nakamura H, Sakamoto C, Iwata Y, Wakita M, Nakata Y, Kamiya K, Kobayashi Y, Sakamoto T, Takiyama Y, Murata	神経内科
28	Journal of Neural Transmission 120(3):350-354	Temporal prolongation of decreased skin blood flow causes cold limbs in Parkinson's disease	Shindo K, Kobayashi F, Miwa M, Nagasaka T, Takiyama Y.	神経内科
29	Journal of Neuroimaging 23(1):82-85	Middle cerebellar peduncles and Pontine T2 hypointensities in ARSACS	Shimazaki H, Takiyama Y, Honda J, Sakoe K, Namekawa M, Tsugawa J, Tsuboi Y, Suzuki C, Baba M, Nakano I	神経内科
30	Neurology Research International 2012;197438 Epub	MRI findings in neuroferritinopathy	Ohta E, Takiyama Y	神経内科
31	International Journal of Hematology. 2012 Jun;95(6):652-9.	An open-label extension study evaluating the safety and efficacy of romiplostim for up to 3.5 years in thrombocytopenic Japanese patients with immune thrombocytopenic purpura (ITP).	Shirasugi Y, Anco K, Miyazaki K, Tomiyama Y, Iwato K, Okamoto S, Kurokawa M, Kirito K, Hashino S, Ninomiya H, Mori S, Yonemura Y, Utsuki K, Wei H, Lizambri R	血液・腫瘍内科
32	臨床血液 2013;54(3):295-299.	TPO受容体作動薬ロミプロスチムによって骨髄レチクリンおよびコラーゲン線維の増生を認めたITP	桐戸敬太、小松則夫	血液・腫瘍内科
33	臨床血液 2013;54(3):290-294.	多発性髄外腫瘍で発症したMLL遺伝子再構成を伴う混合形質性急性白血病	川島 一郎、菅浦 侑希、山本健夫、濱中聡至、野崎由美、中島圭、三森徹、桐戸敬太	血液・腫瘍内科
34	臨床血液 2013;54(3):261.	Picture in Clinical Hematology(No.61) ATRA内服中にSweet病を併発した急性前骨髄球性白血病	末木侑希、川島 一郎、三森徹、山本健夫、濱中聡至、野崎由美、中島圭、桐戸敬太、花輪書絵	血液・腫瘍内科
35	山梨医学雑誌 2013;26(1):23-28.	重篤な乳酸アシドーシスを合併したびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫	野崎由美、三森徹、中島圭、岩尾憲明、山本健夫、西山真由美、中澤正樹、小松則夫、桐戸敬太	血液・腫瘍内科
36	臨床病理 2012;60(6):553-559.	注目される新しい病態・疾患概念と臨床検査 血液疾患編 WHO第4版分類における本態性血小板血症の診断と問題点	桐戸敬太	血液・腫瘍内科
37	Pediatr Endocrinol Metab. 2013;26(1-2):173-7. doi: 10.1515/pepm-2012-0304.	Severe hypothalamic-pituitary dysfunction accompanied by influenza-associated encephalopathy: report of two pediatric cases.	Yagasaki H, Kobayashi K, Saito T, Goto Y, Komai T.	小児科
38	J Pediatr Endocrinol Metab. 2012;25(9-10):1031-3. doi: 10.1515/pepm-2012-0147.	Transient isolated marked elevation of midregion parathyroid hormone fragments in an infant.	Nakane T, Higashida K, Sugita K.	小児科
39	Seizure. 2013 Jan;22(1):43-7. doi: 10.1016/j.seizure.2012.10.003. Epub 2012 Nov 3. The journal of the British Epilepsy	Effects of levetiracetam on seizure frequency and neuropsychological impairments in children with refractory epilepsy with secondary bilateral synchrony.	Kanemura H, Sano F, Sugita K, Aihara M.	小児科
40	Leuk Res. 2013 Jan;37(1):93-101. doi: 10.1016/j.leukres.2012.10.001. Epub 2012 Oct 23.	Diverse underlying proliferation response to growth factors in imatinib-treated Philadelphia chromosome-positive leukemias.	Nemoto A, Inukai T, Uno K, Kiyokawa N, Miyagawa Y, Takahashi K, Sato H, Akahane K, Hirose K, Honna-Oshiro H, Goi K, Kagami K, Nakazawa S, Fujimoto I, Inaba T, Sugita K	小児科
41	Dev Med Child Neurol. 2012 Oct;54(10):912-7. doi: 10.1111/j.1469-8749.2012.04358.x. Epub 2012 Jul 4.	Do sequential EEG changes predict atypical clinical features in rolandic epilepsy?	Kanemura H, Sano F, Aoyagi K, Sugita K, Aihara M.	小児科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
42	Leukemia. 2012 Dec;26(12):2483-93. doi: 10.1038/leu.2012.139. Epub 2012 May 30.	Oncogenic fusion E2A-HLF sensitizes t(17;19)-positive acute lymphoblastic leukemia to TRAIL-mediated apoptosis by upregulating the expression of death receptors.	Zhang X, Inukai T, Hirose K, Akahane K, Kuroda I, Honna-Oshiro H, Kagami K, Goi K, Nakamura K, Kobayashi M, Endo M, Yagita H, Kurosawa H, Thomas Look A, Honda H, Inaba T, Nakazawa S, Sugita K	小児科
43	Seizure. 2012 Sep;21(7):496-500. doi: 10.1016/j.seizure.2012.05.001. Epub 2012 Jun 12. The Journal of the British Epilepsy Society	Valproate sodium enhances body weight gain in patients with childhood epilepsy: a pathogenic mechanisms and open-label clinical trial of behavior therapy.	Kanemura H, Sano F, Maeda Y, Sugita K, Aihara M.	小児科
44	Oncogene. 2013 Mar 28;32(13):1670-81. doi: 10.1038/onc.2012.186. Epub 2012 Jun 4.	BCR-ABL regulates death receptor expression for TNF-related apoptosis-inducing ligand (TRAIL) in Philadelphia chromosome-positive leukemia.	Kuroda I, Inukai T, Zhang X, Kikuchi J, Furukawa Y, Nemoto A, Akahane K, Hirose K, Honna-Oshiro H, Goi K, Kagami K, Yagita H, Tauchi T, Maeda Y.	小児科
45	Pediatr Int. 2012 Aug;54(4):520-3. doi: 10.1111/j.1442-200X.2012.03599.x. Epub 2012 Apr 25.	Duration of recognized fever in febrile seizure predicts later development of epilepsy.	Kanemura H, Sano F, Mizorogi S, Aoyagi K, Sugita K, Aihara M.	小児科
46	小児アレルギー学会誌 26(2):251-257	Component-resolved diagnostics(CRD)を用いて診断した、シラカンバ花粉と大豆加工品によるpollen-food allergy syndromeの一例	杉山剛 斎藤圭一 杉田完爾	小児科
47	小児呼吸器疾患学会雑誌 23(2):140-146	パルスオキシメーターを用いた小児睡眠呼吸障害(SDB)スクリーニング法	杉山剛 斎藤圭一 杉田完爾	小児科
48	日本小児血液・がん学会雑誌 49(1-2):67-72	小児科病棟の改修工事における環境汚染対策とその効果	大飼 岳史, 杉田 節子, 合井 久美子, 赤羽 弘資, 大城 浩子, 尾合 美奈子, 塚塚 高峰, 岡田 秋次, 堀口 まり子, 石松 維世, 杉田 矢ヶ崎 英晃, 駒井 孝行, 鈴木 健之, 大矢知 昇, 尾花 和子, 小林 浩司, 蓮田 憲夫, 高野 邦夫, 東田 耕輔, 杉田 完爾, 山梨小児標準医療研究会	小児科
49	日本小児科学会雑誌116:1737-1742, 2012	小児急性虫垂炎における診療基準の作成と診療情報シートの活用	杉田 完爾, 山梨小児標準医療研究会	小児科
50	Brain Dev. 2012; 34 (4): 302-307 doi: 10.1016/j.braindev.2011.007	EEG characteristics predict subsequent epilepsy in children with febrile seizure.	Kanemura H, Mizorogi S, Aoyagi K, Sugita K, Aihara M	小児科
51	J Pediatr Epilepsy 2012; 1: 37-42 doi: 10.3233/PEP-2012-006	Thalamic hypoperfusion on SPECT in epilepsy with bilateral synchronous discharge.	Kanemura H, Sano F, Shimoyama H, Sugita K, Aihara M	小児科
52	Pediatrics & Therapeutics: Current Research 2012; 2: 5 doi: 10.4172/2161-0665.1000e113	Epilepsy with continuous spike-waves during slow sleep: when and how should we treat?	Kanemura H, Aihara M	小児科
53	J Pediatr Epilepsy 2012; 1: 187-93 doi: 10.3233/PEP-12030	Neurobiological effects of CSWS on brain growth: A magnetic resonance imaging volumetric study	Kanemura H, Aihara M	小児科
54	Journal of Investigative Dermatology(impress)	Must cells Play a Key Role in Host Defense against Herpes Simplex Virus Infection through TNF- α and IL-6 Production.	Aoki R, Kawamura T, Goshima F, Ogawa Y, Nakae S, Nakao A, Moriishi K, Nishiyama Y.	皮膚科
55	Dermatol52(5):572-574	Two cases of autosomal recessive wooly hair with LIPH gene mutations	Kazutoshi H, Takashi I, Tatsuyoshi K, Naotaka S, Kinoshita T, Nobuhiro D, Shinji S	皮膚科
56	Cell Host & Microbe13(1):77-86	Antimicrobial Peptide LL-37 Produced by HSV-2-Infected Keratinocytes Enhances HIV Infection of Langerhans Cells	Youichi O, Tatsuyoshi K, Takamitsu M, Rui A, Peter G, Atsuya Y, Kohji M, Kenshi Y, Yoshio K, Andrew B, Shinji S	皮膚科
57	J Surg Res, 175, 101-112	The Kupffer Cell Inhibition Exacerbates but Splenectomy Prevents Mortality in a Rat Septic Peritonitis Model.	Kono H, Fujii H, Ogiku M, Hara M, Tsuchiya M, Ishii K,	第一外科
58	J. Gastroenterol, 5, 82-87	A case of the foregut gastric duplication cyst with pseudostratified columnar ciliated epithelium.	Hosomura N, Kono H, Kawaida H, Amemiya H, Itakura I, and	第一外科
59	Oncoimmunology, 1(7), 1104-1110	Expression of MHC Class I on breast cancer cells correlates inversely with HER2 expression.	Inoue M, Mimura K, Izawa S, Shiraishi K, Inoue A, Shiba S, Watanabe M, Maruyama T, Kawaguchi Y, Inoue S, Kawasaki T, Choudhury A, Katoh R, Fujii H, Kiessling R, Kono K	第一外科
60	Gastric Cancer, Epub ahead of print	Lapatinib acts on gastric cancer through both antiproliferative function and augmentation of trastuzumab-mediated antibody-dependent cellular cytotoxicity.	Shiraishi K, Mimura K, Izawa S, Inoue A, Shiba S, Maruyama T, Watanabe M, Kawaguchi Y, Inoue M, Fujii H, Kono K	第一外科
61	Hepatology, 56(1), 130-9	Interstrain differences in liver injury and one-carbon metabolism in alcohol-fed mice.	Tsuchiya M, Ji C, Kosyk O, Shymonyak S, Melnyk S, Kono H, Tryndyak V, Muskhelishvili L, Pogribny IP, Kaplowitz N, Rusyn	第一外科
62	Hepatology, In press, 82-87	Macrophage colony-stimulating factor plays a pivotal role in chemically induced hepatocellular carcinoma in mice.	Hara M, Kono H, Furuya S, Hirayama K, Tsuchiya M, and	第一外科
63	J Surg Res, Epub ahead of print	Interleukin-17A plays a pivotal role in cholestatic liver fibrosis in mice.	Hara M, Kono H, Furuya S, Hirayama K, Tsuchiya M, and	第一外科
64	J Surg Res, Epub ahead of print	Interleukin-17A plays a pivotal role after partial hepatectomy in mice.	Furuya S, Kono H, Hara M, Hirayama K, Tsuchiya M, and	第一外科
65	J Surg Res, 174, 142-149	Interleukin-17A Plays a Pivotal Role in Polymicrobial Sepsis According to Studies Using IL-17A Knockout Mice.	Ogiku M, Kono H, Hara M, Tsuchiya M, Fujii H	第一外科
66	Journal of Spine Research 2012 3(2):123-129	Age-related Changes in MCP-1, MMP-3 and VEGF Expression in the Degeneration of Mouse Intervertebral Disc	Fujita K, Ohba T, Ando T, Wako M, Nakao A, Hara H	整形外科
67	Journal of Orthopaedic Research 2012 30:599-605	Age-related expression of MCP-1 and MMP-3 in mouse intervertebral disc in relation to TWEAK and TNF-alpha stimulation.	Fujita K, Ando T, Ohba T, Wako M, Satoh N, Nakamura Y, Ohnuma Y, Hara Y, Katoh R.	整形外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
68	Cancer 2012 118:2494-2506	Thrombin induces osteosarcoma growth, a function inhibited by low molecular weight heparin in vitro and, in vivo: Procoagulant nature of osteosarcoma	Ichikawa J, Cole HA, Magnussen RA, Mignemi NA, Butler M, Holt GE, O'Rear L, Yuasa M, Pabla B, Haro H, Cates JM, Hamm HF	整形外科
69	Journal of Orthopaedic Research 2013 31:1144-1149	Endogenous TGF- β Activity Limits TSLP Expression in the Intervertebral Disc Tissue by Suppressing NF- κ B Activation.	Yong Zhu, Ohba T, Ando T, Fujita K, Koyama K, Nakamura Y, Katoh R, Haro H, Nakao A	整形外科
70	Journal of Orthopaedic Science 2013 18(3):369-373	Risk management in posterior spinal endoscopic surgery in lumbar diseases.	Ebata S, Satoh H, Orii H, Sasaki S, Ohba T, Haro H	整形外科
71	J Neurosurg. 2012 Aug;117(2):302-8.	Endoscopic indocyanine green video angiography in aneurysm surgery: an innovative method for intraoperative assessment of blood flow in vasculature hidden from microscopic view.	Nishiyama Y, Kinouchi H, Senbokuya N, Kato T, Kanemaru K, Yoshioka H, Horikoshi T	脳神経外科
72	J Neurosurg. 2012 Aug;117(2):372-7	Diagnostic value of the optic nerve sheath subarachnoid space in patients with intracranial hypotension syndrome.	Takeuchi N, Horikoshi T, Kinouchi H, Watanabe A, Yagi T, Mitsuka K, Senbokuya N	脳神経外科
73	J Neurosurg. 2013 Jan;118(1):121-30.	Effects of cilostazol on cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage: a multicenter prospective, randomized, open-label blinded end point trial.	Senbokuya N, Kinouchi H, Kanemaru K, Ohashi Y, Fukamachi A, Yagi S, Shimizu T, Furuya K, Uchida M, Takeuchi N, Nakano S, Koizumi H, Kobayashi C, Fukasawa I, Takahashi T, Kuroda K	脳神経外科
74	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2012 Apr 12.	Simultaneous Onset of Anterior and Middle Cerebral Artery Dissections with an Old Vertebral Artery Dissection.	Kato T, Yagi T, Yoshioka H, Ogiwara M, Horikoshi T, Kinouchi H	脳神経外科
75	Neurosurgery. 2013 Jun;72(6):1031-9.	Expression of indoleamine 2,3-dioxygenase and correlation with pathological malignancy in gliomas.	Mitsuka K, Kawataki T, Satoh E, Asahara T, Horikoshi T	脳神経外科
76	LISA 19(8):806-809	電動式PCAポンプを用いたがん性疼痛管理—簡便で迅速な疼痛コントロールが可能に突出痛や神経障害性疼痛にも対応できる—	飯嶋 哲也	麻酔科
77	臨床麻酔 36(6):895-901	PCAによる術後疼痛管理	飯嶋 哲也	麻酔科
78	麻酔 61(1):42-46	体温	岩下 博宣 松川 隆	麻酔科・手術部
79	山梨産科婦人科学会雑誌 3(2):3-13	地域周産期等医療学講座の4年半の軌跡	奥田 靖彦 笠井 真祐子 川上 弓花 喜木 穂代	産婦人科
80	山梨産科婦人科学会雑誌 3(2):33-36	胚発育速度と凍結融解胚盤胞移植日の検討	小川 達之 笠井 剛 大木 麻喜 下地 彩乃 原口 セリナ・まゆみ 平田 修司	産婦人科
81	山梨産科婦人科学会雑誌 3(2):37-42	分娩中のアナフィラキシーショックのため胎児機能不全を発症した1例	加々美 桂子 奥田 靖彦 笠井 真祐子 大木 麻喜 小笠原 英理子 平田 修司	産婦人科
82	山梨産科婦人科学会雑誌 3(2):43-48	癌性腹膜炎との鑑別に苦慮した稀少部位子宮内膜症の一例	菊嶋 聡子 寺本 勝寛 坂本 育子 池上 淳 平田 修司	産婦人科
83	山梨産科婦人科学会雑誌 3(2):49-53	高度肥満合併子宮体癌に対し根治術前に腹壁の脂肪層切除を施行した1例	峰 俊輔 多賀谷 光 奈良 政敏 大森 真紀子 端 晶彦 平田 修司	産婦人科
84	産科と婦人科79(9):1102-1108	特集 知っておきたい重症産褥合併症 4. 胎盤遺残、胎盤ポリープ	奥田 靖彦 小笠原 英理子 平田 修司 笠井 真祐子	産婦人科
85	山梨産科婦人科学会雑誌 3(1):10-13	山梨県における静脈血栓塞栓症予防の現状について～帝王切開術後に肺血栓塞栓症を発症した1例から～	大井 恵 笠井 真祐子 小笠原 英理子 奥田 靖彦 平田 修司	産婦人科
86	Lower urinary tract symptoms, 2012, 4(3):110-119.	Tadalafil for the Treatment of Lower Urinary Tract Symptoms in Japanese Men with Benign Prostatic Hyperplasia: Results from a 12-week Placebo-controlled Dose-finding Study with a 42-week Open-label Extension	Masayuki Takeda, Osamu Nishizawa, Takeshi Imamura, Yoji Morisakim, Lars Viktrup	泌尿器科
87	International Journal of Clinical Practice, 2012, 66(12):1132-1138.	Sociocultural and environmental influences on bladder health	Mary H. Palmer, Anastasios Athanasopoulos, Kyu-Sung Lee, Masayuki Takeda, Jean Jacques Wyndaele	泌尿器科
88	J Urol, 2012, 188(1):307-315.	β -Catenin Signaling Contributes to Platelet Derived Growth Factor Elicited Bladder Smooth Muscle Cell Contraction Through Up-Regulation of Cx43 Expression	Li Kai, Jiang, Yao, Norifumi Sawada, Masanori Kitamura, K-E. Andersson, Masayuki Takeda	泌尿器科
89	Open J Urol, 2012, 2(2):72-74.	Intraoperative Fluoroscopic Monitoring during TVM Surgery: Safer Procedure Even for Beginners	Hideki Kobayash, Norifumi Sawada, Satoru Kira, Tatsuya Miyamoto, Yaburu Haneda, Hidenori Zakohji, Takayuki Tsuchida, Isao Araki, Masayuki Takeda	泌尿器科
90	日本女性骨盤底医学会誌、2012、9(1):195-202.	TOT手術における術前後の排尿状態の変化に関する検討	吉良 聡、小林英樹、羽根田 破、武田正之、荒木勇雄	泌尿器科
91	日本女性骨盤底医学会誌、2012、9(1):68-71..	透視下TVM手術の検討	小林英樹、澤田智史、今井祐樹、吉良 聡、宮本達也、羽根田 破、荒木勇雄、武田正之	泌尿器科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
92	PM PROGRESS IN MEDICINE, 2012, 32(11):195-202.	夜間頻尿を有する過活動膀胱患者に対するイダグフェナシンの効果-EVOLUTION Studyの性別による解析-	吉田正貴、武田正之、高橋 悟、西澤 理、後藤百万、枅森 直哉	泌尿器科
93	泌尿器外科、2012、25(1):55-68.	日本人の過活動膀胱患者を対象にしたフェソテロジンの長期投与試験	武田正之、山口 脩、西澤 理、吉田正貴、弘 新太郎、磯和仁	泌尿器科
94	電子情報通信学会論文誌、2012、95 D-1:139-148.	逐次細分化自己組織化マップを用いたシャント音の分類と狭帯スリーニング法の提案	加藤 初弘、鈴木 裕、深澤瑞也、阪田 治、服部 遊	泌尿器科
95	PLoS One, 2013, 8:e58057.	Connexin 43 hemichannel-mediated regulation of connexin 43	Kai Li, Yuan Chi, Qiaojian Yan, Kun Gao, Hiroyuki Matsue, Masayuki Takeda, Masanori Kitamura, Jian Yao.	泌尿器科
96	Am.J.Physiol., Renal Physiol., 2013, 304:F390 - F396.	Effects of Urethane on reflex activity of lower urinary tract in decerebrate unanesthetized rats.	Mitsuharu Yoshiyama, Roppolo, James, R., Masayuki Takeda, William C. de Groat	泌尿器科
97	Int J Urol., 2013, 20:610-615.	Lower urinary tract symptoms in patients with Niigata Minamata disease: A case-control study 50 years after methyl mercury pollution.	Noboru Hara, Hisashi Saito, Kota Takahashi and Masayuki Takeda	泌尿器科
98	Open Journal of Urology, 2013, 3(2):102-109.	Distribution and Possible Function of Cannabinoid Receptor Subtype 1 in the Human Prostate -An Inhibitory Role for Growth in the Human Prostate Cancer	Manabu Kamiyama, Mizuya Fukasawa, Yoshio Takihana, Norifumi Sawada, Hiroshi, Nakagomi, Mitsuharu Yoshiyama, Isao Araki and Masayuki Takeda	泌尿器科
99	Open Journal of Urology, 2013, 3(2):47-59.	Expression of Large Conductance, Voltage- and Ca2+-Activated K+ (BK) Channels in Human Urinary Bladder: Alteration of Subunit Expression Profile in Association with Bladder Outlet Obstruction.	Hidenori Zakoi, Hideki Kobayashi, Mitsuharu Yoshiyama, Masayuki Takeda, Isao Araki.	泌尿器科
100	Jpn J Ophthalmol 56:339-345	Efficacy and safety of switching to travoprost/timolol fixed-combination therapy from latanoprost monotherapy	Kashiwagi K	眼科
101	あたらしい眼科29:272-276	緑内障患者に対する診療連携と情報通信技術活用に関する意識調査	北村一義、杉山 敬、林京子、比江島欣慎、柏木賢治	眼科
102	Curr Eye Res 37:170-178	Role of retinal glial cell glutamate transporters in retinal ganglion cell survival following stimulation of NMDA receptor	Furuya T, Pan Z, Kashiwagi K	眼科
103	臨床眼科 66:487-490	エキシマレーザー治療的角膜切除術の治療成績	高橋 博、帯敬敏太郎、阿蘇仁志、齋藤 森、飯島裕幸	眼科
104	Iijima H	Correlation between visual sensitivity loss and years affected for eyes with retinitis pigmentosa	Jpn J Ophthalmol 56:224-229	眼科
105	Jpn J Ophthalmol 56:165-174	Recurrence of macular edema associated with branch retinal vein occlusion after intravitreal bevacizumab	Hanada N, Iijima H, Sakurada Y, Imasawa M	眼科
106	Jpn J Ophthalmol 56:375-379	Foveal sensitivity and visual acuity in macular thickening disorders	Chiba N, Imasawa M, Goto T, Imai M, Iijima H	眼科
107	Clinical Ophthalmology 6:1547-1552	Bimatoprost ophthalmic solution 0.03% lowered intraocular pressure of normal-tension glaucoma with minimal adverse events	Tsumura T, Yoshikawa K, Suzumura H, Kimura T, Sasaki S, Kimura J, Takeda R	眼科
108	Open Ophthal J 6:73-74	Reappraisal of spontaneous closure rate of idiopathic full-thickness macular holes	Sugiyama A, Imasawa M, Chiba T, Iijima H	眼科
109	Ophthalmology 119:1819-1825	Association between Genetic Variants Associated with Vertical Cup-to-Disc Ratio and Phenotypic Features of Primary Open-Angle Glaucoma	Mabuchi F, Sakurada Y, Kashiwagi K, Yamagata Z, Iijima H, Tsukahara S	眼科
110	J glaucoma 21:296-301	Longitudinal changes in anterior chamber configuration in eyes with open-angle glaucoma and associated factors	Pan Z, Furuya T, Kashiwagi K	眼科
111	Br J Ophthalmol 96:821-825	Risk factors for anxiety and depression in patients with glaucoma	Mabuchi F, Yoshimura K, Kashiwagi K, Yamagata Z, Kanba S, Iijima H, Tsukahara S	眼科
112	Allergol Int 2012 Mar;61(1): 155-62	A randomized control trail of stepwise treatment with fluticasone propionate nasal spray and fexofenadine hydrochloride tablet for seasonal allergic rhinitis.	Takahashi G, Matsuzaki Z, Okamoto A, Ito E, Matsuoka T, Nakayama T, Masuyama K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
113	アレルギー 2013 Jan;62(1)47-53	下鼻甲介手術を併施した後鼻神経切断術の有効性の検討	上條 篤、黒田優美、初鹿恭介、森山元大、松岡祥和、山本卓典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
114	耳鼻咽喉科臨床 2012.11 105(11)1047-1051	内視鏡的治療を行った後天性後鼻孔閉鎖例	黒田優美、上條 篤、高橋吾郎、山本卓典、遠藤周一郎、森山元大、増山敬祐	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
115	Tech Vasc Interv Radiol, 15 (3): 241-53. 2012.	Balloon-occluded retrograde transvenous obliteration of gastric varices from unconventional systemic veins in the absence of gastrorenal shunts	Araki, Takuji, Saad, W. E.	放射線科
116	Radiother Oncol, 104 (3): 390-4. 2012.	Large prostate motion produced by anal contraction.	Onishi H, Kuriyama K, Komiyama T, Marino K, Araya M, Saito R, Aoki S, Maehata Y, Tominaga L, Sano N, Oguri M, Onohara K, Watanabe J, Koshiishi T, Ogawa	放射線科
117	Magn Reson Med Sci, 11 (4): 291-7. 2012.	Magnetic resonance elastography for staging liver fibrosis in chronic hepatitis C	Ichikawa S, Motosugi U, Ichikawa T, Sano K, Morisaka H, Enomoto N, Matsuda M, Fujii H, Araki T	放射線科
118	Eur J Radiol, 81 (10): 2533-7. 2012.	Multi-organ perfusion CT in the abdomen using a 320-detector row CT scanner: Preliminary results of perfusion changes in the liver, spleen, and pancreas of cirrhotic patients.	Motosugi U, Ichikawa T, Sou H, Morisaka H, Sano K, Araki T	放射線科
119	Eur J Radiol, 81 (9): 2450-5. 2012.	Optimal iodine dose for 3-dimensional multidetector-row CT angiography of the liver.	Ichikawa T, Motosugi U, Morisaka H, Sou H, Onohara K,	放射線科
120	Eur J Radiol, 81 (11): 3530-4. 2012	Value of dual time point F-18 FDG-PET/CT imaging for the evaluation of prognosis and risk factors for recurrence in patients with stage I non-small cell lung cancer treated with stereotactic body radiation therapy.	Satoh Y, Nambu A, Onishi H, Sawada E, Tominaga L, Kuriyama K, Komiyama T, Marino K, Aoki S, Araya M, Saito R, Maehata Y, Oguri M, Araki T	放射線科
121	J Craniomaxillofac Surg. 2012 Jun;40(4):e119-24	Effect of self-setting α -tricalcium phosphate between segments for bone healing and hypoaesthesia in lower lip after sagittal split ramus osteotomy.	Ueki K, Okabe K, Marukawa K, Mukozawa A, Moroi A, Miyazaki M, Nakagawa K, Yamamoto E.	歯科口腔外科
122	Int J Oral Maxillofac Surg. 2012 Jul;41(7):835-8	Changes in the lip closing force of patients with class III malocclusion before and after orthognathic surgery.	Ueki K, Mukozawa A, Okabe K, Miyazaki M, Moroi A, Marukawa K, Nakagawa K.	歯科口腔外科
123	J Craniomaxillofac Surg. 2012 Dec;40(8):821-7	Changes in temporomandibular joint and ramus after sagittal split ramus osteotomy in mandibular prognathism patients with and without asymmetry.	Ueki K, Moroi A, Sotobori M, Ishihara Y, Marukawa K, Yoshizawa K, Kato K, Kawashiri	歯科口腔外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
124	Int J Oral Maxillofac Surg. 2012 Aug;41(8):942-8	Maxillary stability after Le Fort I osteotomy using three different plate systems.	Ueki K, Okabe K, Moroi A, Marukawa K, Sotobori M, Ishihara Y, Nakagawa K.	歯科口腔外科
125	J Craniomaxillofac Surg. 2013 Mar;41(2):129-34.	Assessment of bone healing and hypoesthesia in the upper lip after Le Fort I osteotomy with self-setting α -tricalcium phosphate and absorbable plates.	Ueki K, Okabe K, Marukawa K, Mukozawa A, Moroi A, Miyazaki M, Sotobori M, Ishihara Y, Yoshizawa K, Ooi K, Kawashiri	歯科口腔外科
126	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2012 Nov;114(5):567-76.	A hypothesis on the desired postoperative position of the condyle in orthognathic surgery.	Ueki K, Moroi A, Sotobori M, Ishihara Y, Marukawa K, Takatsuka S, Yoshizawa K, Kato K, Kawashiri S.	歯科口腔外科
127	J. Orthop. Res. 30:599-605	Age-related expression of MCP-1 and MMP-3 in mouse intervertebral disc in relation to TWEAK and TNF-alpha stimulation.	Kohji FUJITA Takashi ANDO Tetsuroh OHBA Masanori WAKOU Nobutaka SATOH Yuki NAKAMURA Yuko Ohnuma Yasushi HARA Ryohei KATOH Atsuhito NAKAO Hirotaka HARA	人体病理学
128	PATHOLOGY, 44(3):273-5	Neuroendocrine ductal carcinoma in situ, comedo type, of the breast detected by screening mammography: a potentially pre-invasive counterpart of high grade neuroendocrine tumours	Tomonori KAWASAKI Ayako INOUE Kunio MOCHIZUKI Shingo INOUE Tadao NAKAZAWA Tetsuo KONDO Tetsu YAMANE Niu DONGFENF Masayuki INOUE Takanori MARUYAMA Naoki Oishi Ryohei KATOH	人体病理学
129	Pathology International, 62(5):1440-1827	A case of endocrine mucin-producing sweat gland carcinoma	Takashi Inozume Tomonori KAWASAKI Kazutoshi Harada Keiko Tanaka Tatsuyoshi Kawamura Naotaka Shibagaki Ryohei KATOH Shinji Shimada	人体病理学
130	HUMAN PATHOLOGY, 43(6):932-938	Unusual thyroid carcinoma with excessive extracellular hyaline globules: a case of "hyalinizing papillary carcinoma".	Tetsuo KONDO Tadao NAKAZAWA Nobuo TERADA Kumiko NAKAZAWA Tomonori KAWASAKI Kunio MOCHIZUKI Tetsu YAMANE Shinichi OHNO Ryohei KATOH	人体病理学
131	HUMAN PATHOLOGY, 43(6):834-842	Global histone modification of histone H3 in colorectal cancer and its precursor lesions.	Tadao NAKAZAWA Tetsuo KONDO Def MA Niu DONGFENF Kunio MOCHIZUKI Tomonori KAWASAKI Tetsu YAMANE Hiroshi IINO Hideki FUJII Ryohei KATOH	人体病理学
132	PLOS ONE, 7(7)	Differential expression of aquaporins and its diagnostic utility in thyroid cancer.	Niu DONGFENF Tetsuo KONDO Tadao NAKAZAWA Tomonori KAWASAKI Tetsu YAMANE Kunio MOCHIZUKI Toshiyuki Matsuzaki Toshiyuki Matsuzaki Ryohei KATOH	人体病理学
133	JOURNAL OF CLINICAL PATHOLOGY, 65(8):699-703	Neuroendocrine cells associated with neuroendocrine carcinoma of the breast -nature and significance-	Tomonori KAWASAKI Kunio MOCHIZUKI Hideko Yamauchi Shingo INOUE Tetsuo KONDO Naoki Oishi Tadao NAKAZAWA Tetsu YAMANE Yoshihito KOSHIMIZU Hiroko Tsunoda Hiroshi Yagata Masayuki INOUE Ayako INOUE Takanori MARUYAMA Hideki FUJII Ryohei KATOH	人体病理学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
134	HISTOPATHOLOGY, 8(10):1365-2559	Expression of aquaporin3 in human neoplastic tissues.	Niu DONGFENF Tetsuo KONDO Tadao NAKAZAWA Tetsu YAMANE Kunio MOCHIZUKI Tomonori KAWASAKI Toshiyuki Matsuzaki Kuniaki TAKATA Ryohei KATOH	人体病理学
135	LABORATORY INVESTIGATION, 92(8):1181-1190	Transcription factor Runx2 is a regulator of epithelial-mesenchymal transition and invasion in thyroid carcinomas.	Niu DONGFENF Tetsuo KONDO Tadao NAKAZAWA Naoki Oishi Tomonori KAWASAKI Kunio MOCHIZUKI Tetsu YAMANE Ryohei KATOH	人体病理学
136	BREAST, 21(5):652-6	High prevalence of neuroendocrine carcinoma in breast lesions detected by the clinical symptom of bloody nipple discharge.	Tomonori KAWASAKI Kunio MOCHIZUKI Hideko Yamauchi Hiroshi Yagata Tetsuo KONDO Hiroko Tsunoda Seigo Nakamura Naoki Oishi Tadao NAKAZAWA Tetsu YAMANE Ayako INOUE Takanori MARUYAMA Masayuki INOUE Shingo INOUE Hideki FUJII Ryohei KATOH	人体病理学
137	J. Orthop. Res. 31:1144-1149	Endogenous TGF- β Activity Limits TSLP Expression in the Intervertebral Disc Tissue by Suppressing NF- κ B Activation.	Yong Zhu Tetsuroh OHBA Takashi ANDO Kohji FUJITA Kensuke KOYAMA Yuki NAKAMURA Ryohei KATOH Hirotaka HARO Atsuhito NAKAO	人体病理学
138	Journal of Artificial Organs16(1): 83-90	Temporal changes in occurrence frequency of bowel sounds both in fasting state and after eating	Sakata O,Suzuki Y, Matsuda K,Satake T	救急部
139	Chem. Pharm. Bull., 60(7), 825-830 (2012)	Formulation Study on Retinoic Acid Gel Compound of Iota-Carrageenan, Polyethylene Oxide and Emulgen 408	Keishi Kawata, Takehisa Hanawa, Naoko Endo, Masahiko Suzuki, and Toshio Oguchi	薬剤部
140	薬学雑誌, 132(12), 1461-1466 (2012)	空気押出型ゼリー剤の試飲調査(第1報) —高齢患者の服薬状態と空気押出型ゼリー剤の適用可能性—	花輪剛久、徳武 昇、小口敏夫	薬剤部

計140件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 島田 眞路
管理担当者氏名	総務課長 小林 義彦、医事課長 高山 俊雄

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴室 看護部 薬剤部 各診療科	カルテ及び検査所見記録等は1患者1ファイルで、すべて病歴室で一元管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項各号及び第九條の二十三第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理室
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理室
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理室

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御室
	第一条の十一 第一項各号及び第九條の二十三 第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 島田 眞路
閲覧担当者氏名	総務課長 小林 義彦、医事課長 高山 俊雄
閲覧の求めに応じる場所	総務課、医事課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	5	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	2 件
	地方公共団体	延	3 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	82.3 %	算定期間	平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		12,484 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		5,909 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		773 人
	D: 初診の患者の数		17,390 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 医療機関における安全管理に関する基本的考え方<ul style="list-style-type: none">・ 医療安全の基本的考え方(2) 医療機関に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項<ul style="list-style-type: none">・ 安全管理の体制を確保するために、安全管理委員会及び安全管理室の設置・ 医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の設置・ 安全管理のための責任者（リスクマネージャー）を定め、病院の安全管理の体制確保に努める(3) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・ 安全体制の確保のために、職員研修の企画・実施(4) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・ 「医療事故等発生報告書」「状況報告書」「インシデントレポート」の入力、報告及び対策・ 安全管理のためのマニュアルを整備し、安全管理委員会に届け出る(5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・ 事故発生時の対応マニュアルの整備および事故発生時の対応(6) 医療従業者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。）<ul style="list-style-type: none">・ 患者への情報提供(7) 患者からの相談への対応に関する基本方針<ul style="list-style-type: none">・ 患者相談対応	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 3 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制の整備、安全管理のためのマニュアル整備(2) 医療事故等の防止及び発生時の対応(3) 使用する医薬品、医療機器の安全管理(4) 安全管理のための職員研修(5) 患者に重篤な傷害が生じた場合の対応、原因分析、改善策の立案・実施、職員への周知(6) 立案した改善策の実施状況の調査及び見直し。(7) 医療従事者と患者との情報の共有(8) 患者からの相談への対応	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 0 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制講演会・・・5回(2) 医療安全活動報告会・・・2回(3) 事例検討会・・・3回	

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 『インシデントレポートシステム』による運用を行っており、インシデントレポートの第1報が入力されると、あらかじめ決められた安全管理室員（①室員）が内容を把握し、関連する部門のリスクマネージャーに情報を伝える。情報を受けた各リスクマネージャーはインシデントの状況確認及び原因の詳細説明、再発防止策を検討し、第2報として報告する。第2報は、担当する安全管理室員（②室員）が内容を検討し、内容が不十分な場合は担当のリスクマネージャーに差し戻し再検討を依頼する。十分の場合は保存レポートとして終了する。 (2) 提出された内容に基づき、重要事例について安全管理委員会及び安全管理室会議において組織としてのインシデントの分析及び問題点を検討する。必要に応じて部署事例検討会を開催し、より実践に即した具体的分析・検討を行う。 (3) 上記で検討された内容に対し、重要事例について安全管理室会議、安全管理委員会で改善策が検討され、その結果はリスクマネージャー会議で報告及び意見交換され、「リスクマネージャー会議便り」として各部署に報告・周知を行ない実行に移している。特に重要と考えられるインシデントについては、インシデント内容、改善策等をリスクマネージャーニュースとして発行し周知徹底している。また必要に応じてゼネラルリスクマネージャーが直接指導し実行に移している。 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (2 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (26) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理委員会及び医療事故調査委員会に関する事項 <ol style="list-style-type: none"> (2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分にされているかの確認及び必要な指導 (3) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認及び必要な指導 (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導 (5) 医療安全に係る連絡調整に関する事項 (6) インシデントレポート及び状況報告書の確認 (7) インシデント等に関する調査及び分析 (8) 改善策の検討及び策定 (9) 職員に対する情報提供 (10) 改善策の実施状況の監視及び指導 (11) 医療事故防止マニュアルの見直し (12) 安全対策に関する教育の企画及び実施 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 委員会等の整備，感染対策マニュアルの整備，リンクドクター・リンクナースの配置，院内感染発生時の対応，インフォームドコンセント，報告の義務，職員研修の実施，指針の閲覧に関する事項など	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容：①定例会議・緊急会議の開催 ②感染症サーベイランスの実施・評価 ③感染症アウトブレイクへの対応 ④感染対策の実施状況の調査・指導 ⑤感染対策に関する教育啓蒙活動(職員・学生) ⑥感染コンサルテーション ⑦職員への職業感染対策推進 ⑧感染対策に関する情報収集 ⑨感染性廃棄物処理の監視及び指導 ⑩感染対策マニュアルの更新	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容：①「院内感染対策に関する情報とお願い」 ②「薬剤部としての ICT 活動への関わり」 ③「看護部感染対策委員会 平成 24 年度活動報告」 ④「知っておきたい耐性菌とその対策の実際」 ⑤「MDR P 発生時の対応と今後の課題」 ⑥「ノロウイルスによる感染性胃腸炎発生時の対応と取り組み」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①感染対策委員会・感染制御室会議・感染対策チーム会議における方策の検討・決定・実施 ②院内ラウンドの実施及び指導 ③感染対策チーム員を通して重要事項を各部署へ伝達するとともに、各部署からの意見・質問を収集した後、会議で検討し再度チーム会議において周知を行なう。 ④感染対策マニュアルの見直し・改訂	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
・研修の主な内容： 1 新採用者職員研修 2 薬剤管理に関する講習会 3 抗菌薬の使い方講習会（医師）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 医薬品安全管理手順書を医薬品安全管理小委員会で見直し、検討を行う。 医薬品安全管理手順書どおり業務が行われているか、年2回チェックする。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医薬品情報室に専任の薬剤師を配置している。 ・ 機構のホームページにて最新の添付文書を閲覧している。 ・ MRに変更添付文書の提出を依頼している。 ・ 調剤棚や注射薬棚に添付文書を保管し、薬品補充時に添付文書変更があれば差し替えている。 ・ 企業より添付文書集を入手し、DI室および調剤室に保管している ・ 周知方法 薬剤部にて医薬品情報やDI-BOXなどの情報誌に編集し、院内・医療関係者に配布している。 この情報はオーダーリングシステムの電子掲示板に掲載し、バックナンバーを参照できるようにしている。 ・ 特定の診療科に対して重要な情報は、当該診療科により詳細な情報を提供している。 ・ 重大な副作用発現など重大な情報は、これまでに使用した医師を処方歴から調査し、医師個人宛に情報提供している。 ・ 病院全体に提供すべき重大な情報について、既読者リストを貼付し、情報を読んだ者の氏名を記載してもらい返送をお願いし、未読者に連絡する。 ・ 医薬品集を定期的に発行している。 ・ PMDA のメディナビに登録し、最新の情報を入手している。	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年6回
・研修の主な内容 使用方法、警報発生時の対処方法、始業前点検事項、安全機構、故障・不具合発生時の対応	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有・無) ・ 保守点検の主な内容： 外観検査、機能条件検査、機械的検査、電気的検査、安全性検査、消耗部品交換	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. インシデントレポート 2. リスクマネージャー会議だより 3. MEセンターからのお知らせ	